

特色GP「教養日本力」高度化推進プログラム ドイツ・イタリア出張報告書

調査者：教務補佐 白井直也

訪問先	ベルリン自由大学 ローマ国立大学「ラ・サピエンツァ」
訪問目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベルリン自由大学で行われた「第14回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム」(ヨーロッパ日本語教師会、AJE 主催)でのポスター発表及びヨーロッパ各地域の日本語教育事情調査 2. ローマ国立大学「ラ・サピエンツァ」にて、イタリアにおける日本語教育研究、日本語研究に関するインタビュー調査
調査日時	2009年9月1日～15日
調査結果	<p>シンポジウムでは、「CEFR 欧州参照枠『複言語・複文化力』圏内の日本語教育とは？」というテーマのもとで、各講演や発表が行われた。欧州が持つ共通の外国語学習の到達基準である CEFR がどのように日本語教育で応用可能であるかについての各発表を聞き、また近年盛んに議論されている「日本語教育スタンダード」をどのように作り上げていくかというパネルディスカッションなどに参加した。CEFR が根付いている欧州の日本語教育では日本国内よりもこのテーマに関心が集まっており、今後もさらに研究が進むと期待される。</p> <p>ローマ国立大学「ラ・サピエンツァ」では、本学卒業で同大学日本語講師の小沢直子先生に、イタリアにおける日本語教育研究、日本研究事情に関するインタビューを行った。日本国内での事前調査とローマ国立大学でのインタビューの結果、イタリアにおいては日本語教育研究は「国際交流基金ローマ日本文化会館」が、日本研究は各大学が行うという二極化が顕著であることが分かった。この点については今後も各大学の講師、またローマ日本文化会館の職員を対象にインタビューを行い、イタリアにおける日本語教育研究の可能性について調査を行う予定である。</p>